植松永次「庭でみつけた流れ星」

Eiji Uematsu: Shooting Stars Found in the Garden





庭に寝っころがって夜空を見上げる。 星の色や輝き、大きさは微妙に違う。 その星空に吸い込まれそうに感じたとき、 一瞬の流れ星。

私の仕事は子供の頃の土遊びが、今に繋がっているのですが、 作ると言うより、一瞬の流れ星を土と火の中に見つけ、 それが形となったようなものです。

植松永次

【展覧会概要】

展覧会タイトル: **植松永次「庭でみつけた流れ星」**

Eiji Uematsu: Shooting Stars Found in the Garden

会 期: 2020年 11月14日 [土] - 12月19日 [土]

*休廊: 日·月·祝 *作家在廊日: 11月14日 [土]、12月19日 [土]

会場:アートコートギャラリー

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F

開廊時間: 11:00-18:00 [土曜日-17:00]

【オンライン企画】

https://www.artcourtgallery.com

本展会期中、下記のコンテンツをウェブサイトよりご覧いただけます。 ▶動画配信;

- 1. 対談 [出川哲朗氏(大阪市立東洋陶磁美術館 館長)x 植松永次]
- 2. 本展会場風景
- ▶出展作品資料

*新型コロナウィルスの感染拡大状況などにより、会期や開廊時間が変更される場合があります。 *館内は感染症防止対策を徹底しています。詳しくはウェブサイトをご確認ください。 主催:アートコートギャラリー(株式会社八木アートマネジメント) 協賛:三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

上:《空にキャンディー》(部分) 2020年、陶、572×542cm(インスタレーションサイズ) 撮影: 来田猛

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 清澤・灰田] ※ビジュアル資料で希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。 〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

植松永次「庭でみつけた流れ星」

Eiji Uematsu: Shooting Stars Found in the Garden



アートコートギャラリーでは、三重県の伊賀を拠点に、土と火を素材として作品を制作する植松永次(b. 1949)の個展を開催します。 土の存在そのものを感じさせる立体や、植物や水が陶と融合する作品、空間を意識的に使ったインスタレーションなど、植松の制作は、 従来の陶芸の枠におさまらない多様さを呈しながら、あくまでも土と火に向き合う透徹した態度に支えられています。

植松の土による仕事は幼少期の土いじりを原点として、「表現すること」に疑問を持った20代に再び土と出会い、「表現しない、つくらない」そして「土の質を確かめる」ことから始まりました。初期には「もの派」やアースワークとの関連で語られることもありましたが、つねに自らが目にし肌身で感じ取るものに立脚しようとする上で、土という素材の扱いや制作プロセス、提示方法など、陶芸のあり方をも相対化する姿勢は、陶芸や彫刻といった既存のジャンルにとらわれることなく、揺るぎない土の佇まいが静けさと情緒を纏う独自の造形を生み出してきました。生活の中で感じる風、光、色、音、その中に宿る生の息吹を土に託し、自らの手、眼と土との対話から見つけ出された形を火によって留める。作者の自己とそれをとりまく世界が土と火を介して一体となったかのような作品は、人間の身体感覚では測れない時間の流れや空間の奥行きさえ感じさせ、それらを前にするとき、私たちは根源的な何ものかに触れたような驚きと懐かしさを覚えます。

植松は80年代初頭、「涸沼・土の光景」展、「土・イメージと形体 1981-1985」展などに参加し、現代美術、現代陶芸の双方において注目を集めて以来、各地の美術館やギャラリーで発表を重ねてきました。2016年、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAでの個展「兎のみた空」では作家の約40年にわたる多彩な表現を緊密に展示することで、その意義と重要性が改めて示されました。2018年には世界最高峰の国際アートフェアFrieze New Yorkにて個展をおこない、2020年12月~2021年2月に兵庫陶芸美術館での個展が予定されるなど、国内外での評価がさらに高まるなか、当廊で初の個展開催となります。

ぜひ、本展をご周知・ご高覧賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

【出品内容】

板状のミニマルな形態と鮮やかに変化する色調が印象的な初期作《加留多》シリーズ(1983~86年)は、土と火、そして慎重に抑えられた作り手の意志が、揺らぎながら均衡を保つ様相を感じさせ、発表当時、新たな陶表現の可能性を示唆して注目を集めました。本展では、同シリーズ最後の制作年となる1986年の陶板を用いて展示を構成します。

また、高さ5mの展示壁面を空に見立て、無数の陶のピースを散りばめる新作の大型インスタレーション《空にキャンディー》は、《加留多》と同じ姿勢、技法にもとづきつつ、年月を経た現在の自己と自然、生活と表現の重なりを、そのまま空間に投影する試みです。 上記2作品を中心に、「土遊び」の身振りを思わせる《流れるように》、粉末状の土を型に入れ焼成した《都市》など、約10点の新作とともに充実した展示構成を予定しています。



《流れるように》 2020年、陶、18.4 x 47 x 18.3 cm



《空気》 2020年、陶、35 x 26.3 x 3 cm



《都市》 2020年、陶、34.2 x 21.2 x 21.7 cm

植松永次「庭でみつけた流れ星」

Eiji Uematsu: Shooting Stars Found in the Garden



【作家略歷】

植松永次 Eiji Uematsu

- 1949 兵庫県神戸市生まれ
- 1972 土の質を確かめることからレリーフを創る。 その後、東京で焼き物の仕事を始める。
- 1975 信楽に入り製陶工場勤務の傍ら自らの制作を続ける。
- 1982 伊賀市丸柱に住居と仕事場を移し、薪と灯油併用の窯を築く。 野焼きも含め作品の巾が広がる。
- 1996 滋賀県立陶芸の森に招待され制作。
- 1980年代~ 個展・グループ展多数。

初期および近年の主な個展

- 1986 ギャラリーマロニエ、京都
- 1987 渋谷西武、東京['91]
- 2007 土の形、伊丹市立工芸センター、兵庫
- 2009 土・火ー根源へ、小海町高原美術館、長野
- 2016 兎のみた空、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都 水の中は森の深さ、Gallery 38、東京 ['20]
- 2018 SHISEIDO WINDOW GALLERY <土>の章 2018、 SHISEIDO THE STORE、東京
- 2019 散歩の中で、ギャラリー佑英、大阪
- 2020 兵庫陶芸美術館、兵庫(12月~2021年2月予定)

主なグループ展

- 1981 Art Now Iga '81、上野市中央公民館ホール/きの画廊、伊賀上野、三重
- 1984 信楽展、信楽伝統産業会館、滋賀
- 1985 '85 涸沼・土の光景、涸沼宮前荘、茨城
- 1986 土・イメージと形体 1981-1985、西武ホール、滋賀/有楽町アート・フォーラム、東京第1回国際陶磁展美濃 '86、岐阜セラミック アネックス シガラキ、
 - 信楽伝統産業会館/滋賀県立近代美術館ギャラリー、滋賀['87-'93]
- 1992 現代陶芸国際激請展、国立歴史博物館、台北
- 1994 京都野外陶芸展'94、梅小路公園、京都
- 2010 BIWAKO BIENNALE 2010、滋賀
- 2015 第10回パラミタ陶芸大賞展、パラミタミュージアム、三重
- 2016 革新の工芸 "伝統と前衛"、そして現代 、東京国立近代美術館工芸館、東京
- 2018 植松永次·松井紫朗、ACG Villa Kyoto、京都



作家スタジオにて(2020年)

[参考作品]



《加留多》 1986年、陶、各 82 x 13 x 1.5 cm © Eiji Uematsu, Gallery 38 Photography: Koji Honda